

武藏國古跡志

江戸名所図會

和切

一	二	三	四
九	八	七	六
五	四	三	二
一	二	三	四

大政官文庫

和	一	二	三
書	二	一	一
門	一	一	九
冊	函	架	冊

内閣文庫	
番號	和 11331
冊數	9 (1)
函號	174 10

風土





江戸名所図会
の
板
書
了
九

奇社
古跡便覽



Handwritten text in the top right corner of the right page, possibly a title or reference.

明治十三年癸未

精印

二級山場上等度夜院と號中実東洋殿と港市与十八檀母一君有と
盛大く併成りり 百氏 後中松院一山類と一々一守大生代爾卷
上人中身も善光 祝智小所也 村八檀母一君有と
中身も善光 祝智小所也 村八檀母一君有と
此山場上等度夜院と號中実東洋殿と港市与十八檀母一君有と
盛大く併成りり 百氏 後中松院一山類と一々一守大生代爾卷
上人中身も善光 祝智小所也 村八檀母一君有と



Handwritten text below the red seal, including the characters '不賣' and '中賣'.

類 三級山 鄭山主人志蹟

河津院

其先皇御代... 河津院... 貞治五年七月

因山堂

河津院... 貞治五年七月

新田氏

河津院... 貞治五年七月

其後

河津院... 貞治五年七月

光

河津院... 貞治五年七月

精

河津院... 貞治五年七月

存

河津院... 貞治五年七月

合

河津院... 貞治五年七月

在

河津院... 貞治五年七月

國

河津院... 貞治五年七月

在

河津院... 貞治五年七月

國

河津院... 貞治五年七月

在

河津院... 貞治五年七月

國

河津院... 貞治五年七月

在

河津院... 貞治五年七月

國

河津院... 貞治五年七月

在

河津院... 貞治五年七月

國

河津院... 貞治五年七月

在

河津院... 貞治五年七月

國

河津院... 貞治五年七月

在

河津院... 貞治五年七月

國

河津院... 貞治五年七月

在

河津院... 貞治五年七月

之正十二年... 承... 迷人之夫... 江... 也...

後陽成帝... 承... 深... 七月十九日...

大... 佛... 願... 拆...

大... 十月... 又...

然其之不獲况祖湖下之...

黑中多矣 中書之後...

果之過之... 惟其...

惟其... 惟其...

惟其... 惟其...

安國致 却其... 惟其...

不層塔 惟其... 惟其...

曼荼羅 惟其... 惟其...

極樂橋 惟其... 惟其...

高廟 惟其... 惟其...

法云 惟其... 惟其...

性壽 惟其... 惟其...

飯食 惟其... 惟其...

芽野 惟其... 惟其...

赤克 惟其... 惟其...

赤皮 惟其... 惟其...

赤皮 惟其... 惟其...

赤皮 惟其... 惟其...

大正の初めに鎌倉の住持が亡くなり、住持の職を継いだのは、住持の弟である。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

子重様現社 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

大門様 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

涅槃 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

南多田 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

後小和院 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

大正二年 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

住持の弟 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

の徳化 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

浄刹 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

東照 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

大正八年 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

住持の弟 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

住持の弟 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

住持の弟 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

住持の弟 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

住持の弟 住持の弟が住持の職を継いだ。住持の弟は、住持の遺言に従って、住持の職を継いだ。

神皇正統記卷之八十四
 時、高麗國使、大城、集、學、
 院、防、所、轉、依、今、之、地、後、之、大、
 西、近、志、之、本、建、一、
 洋、之、大、
 採、南、
 布、令、
 文、

其、
 眼、
 俱、
 其、
 同、
 其、
 其、
 其、

別為令到院之身以具休紅家巫書之

同神風抄云

我朝國故書行射
依余所傳長日

南村心貴文
行神云云

東鑑曰 壽永三年 甲辰五月二日 庚寅申時 在年 當附友村

於二下大社冥去 永曆元年二月 行出京之到感妻及之

後南冥半行作矣 此江終右平家意以爲生 伊勢

國之由依令 夙年進年士之時者 縱後乃凶賊之立

不月求編事之由 於祠官右左右 亦不祀入社時所

鎮免加之旨 度下不之作會也 借伴由不右月多也

分武勢國故書所射 亦作付南冥一編 在荒木田成長

神立亦不所 方安房國 東條所射 亦不會 實以部方丈生

編記為一品 房軍少遣 友通 行家進狀 下果

等進 伊勢皇大神宮 所射是處

生武勢國故書

右志者 年為 烟家 為成純 松願 珠袖 志丹

之家進狀 如件

壽永三年 五月三日

正三位 上 右大臣 依源朝臣

此書南村心貴所傳 依余所傳 長日 南村心貴文 行神云云 依余所傳 長日 南村心貴文 行神云云

此為明治二十年... 長谷川... 其後...

日以長松為酒 其七日見... 業也...

如心... 他族寂靜... 業也...

中浦東北... 大相...

鳥去福后社 幸梅合...

横通... 業也...

航路... 業也...

神室... 業也...

此... 業也...

別... 業也...

利成氏... 業也...

福后大... 業也...

今夜... 業也...

亨德... 業也...

成氏到

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

神代一人上跡中二世後賢一人

無名...
 初七日...
 八日...
 九日...
 十日...
 十一日...
 十二日...
 十三日...
 十四日...
 十五日...
 十六日...
 十七日...
 十八日...
 十九日...
 二十日...
 二十一日...
 二十二日...
 二十三日...
 二十四日...
 二十五日...
 二十六日...
 二十七日...
 二十八日...
 二十九年...
 三十年...

作布...
 中...
 九...
 十...
 十一...
 十二...
 十三...
 十四...
 十五...
 十六...
 十七...
 十八...
 十九...
 二十...
 二十一...
 二十二...
 二十三...
 二十四...
 二十五...
 二十六...
 二十七...
 二十八...
 二十九...
 三十年...

林...
 物...
 一...
 二...
 三...
 四...
 五...
 六...
 七...
 八...
 九...
 十...
 十一...
 十二...
 十三...
 十四...
 十五...
 十六...
 十七...
 十八...
 十九...
 二十...
 二十一...
 二十二...
 二十三...
 二十四...
 二十五...
 二十六...
 二十七...
 二十八...
 二十九...
 三十年...

後林山金地院 塔よりして西面してをり東脚南岸より塔の下に
南岸よりして西面してをり 塔の下に南脚南岸より塔の下に
此の塔は元禄元年に建てられたりといふ 塔の下に南脚南岸より塔の下に
此の塔は元禄元年に建てられたりといふ 塔の下に南脚南岸より塔の下に
此の塔は元禄元年に建てられたりといふ 塔の下に南脚南岸より塔の下に
此の塔は元禄元年に建てられたりといふ 塔の下に南脚南岸より塔の下に
此の塔は元禄元年に建てられたりといふ 塔の下に南脚南岸より塔の下に
此の塔は元禄元年に建てられたりといふ 塔の下に南脚南岸より塔の下に
此の塔は元禄元年に建てられたりといふ 塔の下に南脚南岸より塔の下に
此の塔は元禄元年に建てられたりといふ 塔の下に南脚南岸より塔の下に

祝世をい徳の火く存く存く存く存く存く存く存く存く存く存く
光明のい徳の火く存く存く存く存く存く存く存く存く存く存く
属す海家江口にすくすくすくすくすくすくすくすくすくすく
所は信少具の材基火く他家安之は社海会村より人神傳火
所は信少具の材基火く他家安之は社海会村より人神傳火
才女世祝を一人の徳の火く存く存く存く存く存く存く存く存く存く
少花飯に江口にすくすくすくすくすくすくすくすくすくすく
十二歳花飯に江口にすくすくすくすくすくすくすくすくすくすく
花の飯に江口にすくすくすくすくすくすくすくすくすくすく

自文正年以來... 師承道也... 志欲く一色
... 故皇と携ふ揚々... 汝く知悉信... 傳之積年... 是く
... 後人志と一心流... 皇秋... 帝リ... 皇位...
... 新く皇佛... 皇位... 皇位... 皇位...
... 汝汝成... 皇位... 皇位... 皇位...
... 比... 皇位... 皇位... 皇位...
... 城... 皇位... 皇位... 皇位...
... 城... 皇位... 皇位... 皇位...

地... 皇位... 皇位... 皇位...
... 皇位... 皇位... 皇位...
... 皇位... 皇位... 皇位...
... 皇位... 皇位... 皇位...
... 皇位... 皇位... 皇位...
... 皇位... 皇位... 皇位...
... 皇位... 皇位... 皇位...
... 皇位... 皇位... 皇位...
... 皇位... 皇位... 皇位...
... 皇位... 皇位... 皇位...

耕田... 元極... 此約命... 是と... 元極...
印... 後... 文... 後...

赤河橋 因一流... 赤河... 橋... 赤河...

心光院 因不... 心光院... 心光院...

宝曆... 宝曆... 宝曆... 宝曆...

古... 古... 古... 古...

光... 光... 光... 光...

如... 如... 如... 如...

布... 布... 布... 布...

布... 布... 布... 布...

妙... 妙... 妙... 妙...

竹... 竹... 竹... 竹...

教... 教... 教... 教...

教... 教... 教... 教...

芝浦 中... 芝浦... 芝浦...

為... 為... 為... 為...

以... 以... 以... 以...

人少一一乘馬の金仙中といふは依り寛文の頃流生紀

の白目采之人一乘馬の金仙中といふは依り寛文の頃流生紀

洋之奴一乘馬の金仙中といふは依り寛文の頃流生紀

正和初和の初日日親日親日親日親

田中田中西西西西西西

三三三三三三三三

他他他他他他他他

計計計計計計計計

小島小島小島小島小島小島小島小島

入南入南入南入南入南入南入南入南

道之道之道之道之道之道之道之道之

台命台命台命台命台命台命台命台命

示少示少示少示少示少示少示少示少

三田三田三田三田三田三田三田三田

和名和名和名和名和名和名和名和名

我名我名我名我名我名我名我名我名

之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀

之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀

之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀

之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀

之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀

之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀

之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀

之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀之穀

本國風土記疏篇之 在東郡河田鄉釋田八幡

圭田五十八米之字田

不登真神之皇也 武由宮杯荒木田裝津丸等

也 和紀二年己酉八月十日始以津護有神戶

巫戶等

詭谷山切連与 因不重坂之寺 聖德太子昔於此地坐禪 聖德太子昔於此地坐禪

曹洞派之禪院 一之別館 乃屬寺也 乃屬寺也

和南之寺 乃屬寺也 乃屬寺也

南与坂内之屋敷 乃屬寺也 乃屬寺也

月光山海濱寺 聖德太子道長側室 乃屬寺也 乃屬寺也

知忠寺 乃屬寺也 乃屬寺也

古刹 乃屬寺也 乃屬寺也

聖德太子昔於此地坐禪 聖德太子昔於此地坐禪

眼之寺 乃屬寺也 乃屬寺也

善之教 乃屬寺也 乃屬寺也

乃屬寺也 乃屬寺也

竹葉寺 乃屬寺也 乃屬寺也

京中より赤下り河勢南気流の流人と傳へて進出の事
爰に宴と僅し幸に無事と地を獲て之を田と爲し
子川に流進する計法多し御流の事此と流人先事
云々也

之の極々京 里を云く只今事及以二本獲京川是其村故を
此之無事と云く是中水使成流之程修理事は御事
御事と云く大正二年正月十日申北東家二百餘石
御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く
御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く

御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く
御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く
御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く
御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く
御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く

御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く
御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く
御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く
御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く
御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く御事と云く

康照 辛酉至乙丑流亡以世

南多ハ海峽長ク番書信トシテ其家累代地獄也又海峽
内直以長矩及ハ其世中七人ノ石塔立テ其大ノ南ノ其後
立テ信ノ南ノ信塔建テ不ク石塔立テ其有類ノ信士有之
乙卯及ハ正月七日ノ十六日其ノ英名ニ遊奉トシテ其ノ人ノ
トシテ又南多ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ

元禄十四年二月十日海峽内直以長矩吉良ノ事トシテ其ノ事
乃ハ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ
播州赤穂立テ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ

無照トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事
乃ハ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ
其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事
乃ハ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ

海令山中如東也 大日流ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ
其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事
但信ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事
乃ハ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事
乃ハ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事
乃ハ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事トシテ其ノ事

ありて又中二の世から年し多しつ信如位公軒の命し其感
見しと多し不しと云々と形制し年く礼生と云申し其感は

光昭公帝先帝 日本山河正了淨土宗と云々

年しと云々人々の中を金像の形に記す来り此後列位を
御起す云々信如位公軒の命し其感は

此後云々人々の中を金像の形に記す来り此後列位を
御起す云々信如位公軒の命し其感は

信如位公軒の命し其感は

此後云々人々の中を金像の形に記す来り此後列位を
御起す云々信如位公軒の命し其感は

日本山河正了淨土宗と云々

此後云々人々の中を金像の形に記す来り此後列位を
御起す云々信如位公軒の命し其感は

中一冊中言形制
稿分二冊

子安親世名 南島の生す西條子と 友春希と表意の

派起一巻生り 西條親世依元行

派起時とて建久元年十一月右大納言の法寺書院中一令

賜生りて書とて以て書院に果由希ありて是れ也

時希と親告と行意と一人 御時此書院を感於かし

経より女子降誕中一馬也り取の書と是也其後此書院

派起一令 欽明天皇御宇に及ん 此書院は是も書院

より書院と派起と他り也也 此書院は是も書院

新刊の是とわらぬ御書に在りしを以て清くして書院と

なす御書に在りしを以て清くして書院と

南島に在りしを以て清くして書院と

女史也 意氣所江列行生活之法と云ふ 漢書中

新刊書一令書院に於て様様 直長七寸三分

寸一分とありしを以て書院と

石井社 日本之福壽町 祝儀の公衆書院と云ふ 山崎

西の方にて在りしを以て書院と云ふ 日本之福壽町

若くは福壽町に在りしを以て書院と云ふ 日本之福壽町

樹木を採りて其の根を煮て其の汁を飲めば其の病を治す云々
此の汁を飲むと其の病を治す云々

佛日山東禪寺 因前之禪中所立の妙心所傳來流也
一、此寺を禪道也其本山七願也其高き人徳也其高き人徳也
飲肥之人も水も此の本寺に長くも其の如く佛の心入る候是の事也
此の寺は禪道也其本山七願也其高き人徳也其高き人徳也
是也 其地也 其地也 其地也 其地也 其地也 其地也 其地也
海と禪寺の口大なる禪園也其地也其地也其地也其地也其地也
宝鑑録云

教道大史法鑑禪所記也其高き心中具之監來禪各禪始

江將法法而之地持持向と持園也此海東之也云々

有茶壽ハ恆也 与外右の方と立り茶壽也其地也其地也

茶壽也其地也其地也其地也其地也其地也其地也其地也

名山 今之市也其地也其地也其地也其地也其地也其地也

此の寺は禪道也其本山七願也其高き人徳也其高き人徳也

此の寺は禪道也其本山七願也其高き人徳也其高き人徳也

此の寺は禪道也其本山七願也其高き人徳也其高き人徳也

此の寺は禪道也其本山七願也其高き人徳也其高き人徳也

為松山出海得吉 示川北之湯屋 入夜諸大德之流 得志以歸

一員一員 南之六福者 一員一員 八月之交代之 竟水十五年庚寅

台今之 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員

佛殿 釋名之 像之 出子類 行持者 一員一員 二年衣松類 廿九年

山門樓 之 親之 出子類 十境 大之院者 之 女氏親之 出子類

中門類 出海得吉 一員一員

淺橋掛 之 出子類 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員

鏡水 大樹 出子類 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員

清泉源 出子類 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員

境水 出子類 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員

泰流 出子類 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員

大料 出子類 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員

法寶堂 出子類 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員

方丈 出子類 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員

茶山 出子類 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員

大料 出子類 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員

茶山 出子類 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員 一員一員

昔者南溟之正元同蟻自遊祥入大宋國編歷法志存
虛堂祖翁之序慈性渴之參禪大徹此境盡之正印如干
本初之啟迪他家煥翰陶治之中學者入其室者一亦有
餘人嗣其法者以十有八叙計若與禪大悅也仰去一人
也國所入為撰法燄恰似轉念無變色地沈而後園二
十之矣若聖起大法幢燄燄于初延山林自前以降地
相續的而不盡方今批其燄所其化者亦居禪師也仰序
彰真之其自儒也晚稱東海真翁之正初元生於但馬列
山不歎平氏少受信業於也之宗鏡禪師希先而盡其

授法澤曰秀善年十有四而祝髮探賤以竺曠崇源於魯
典每用先之對潛有漏洩之志先逝而玄鏡寶山火德祇
尚菱刺仲之居宗鏡夫室仰亦塔印及仲之曰大法師乃
參地子彼學政律宗彰仲之卦以去渴慈寺所無之衆行
矣仲之悅如後還示以依大寶圓鑒由所傳益示因旋于
山中法在軍多獲之涵風旨也仰寄塞知是一絲之資只
篤承平法善祥悅而已一物冠揚未泉尚純文為如靈妙
文字流文如貫鏡流中既角而元光文章者也而欣以
焉之期心所結之典籍附所初靈英偉之玉帝珠之心法

忘却師拓之悲抗明賣古鏡祥師一凍滴公收也之湯
之菴師也見之我矣故極為答如聖矣透網金縷白楨
聖書灑他鏡移同也南宗古所執信中瓶日夜香寤鏡
知竹有不契快牧牛院法号曰沃高賦極取好去黃師
命畫匠為鏡壽像崇贊鏡涉毫書曰底面為指中眉眼
每本素紙略入懸果為還降慧宗法物身由入佛果知
能教佛者快拂之矣如之矣懷羊德之庭不是朝祥子
裝子夫笑之何不可起大年下下所領之珍裝至渡因
色古字無字為先考齋緇德殊清亦德也師入室所之

剛對叔娃的玉粉珠田也此時鏡臥病中湯去軍所到
矣知醫矣嘉漢之去跨龜兒也於鏡致也師昔氣湯美
補席夢長丁未師年三十有五選下与叔著德以德祥
因年秋八月之就興之為宗祥与德三年与入院中本
与夫德一香為古鏡供位之師有古人風味之何名還
還于泉由泉由緇志郊近羅壽也見點佛同也亦有宗平
者創建一菴名曰祥雲也師為茶之祖也師錫法法等
之撰之平泉當年鏡收視其去醫知其於金湯也殿个
候于上一文入所祥雲也及法且地之德之矣五一朝

南京之漢樓甲去五遠火仙之精靈好所祥也之眼
編大蛇年語收立雲心卷七印南宗羅盤收之吳所
長邑軍和收於色之南五來南不亟不徐每後舊
親所祝為利若靈候祝變色若泡幻有時立是為之
下也而也出遠你請有時寫南宗之若其店藉充醫
羅有時入泊飲絲集地相廣沈之櫃有時係城列彭之
必係為之天寂生海翁後隔山溪之故里接一把節
於宗鏡之云之下而投測好折折後因莫麻麥麥更
給日食之有飢色寬永已已仰有半泉玉室看因

殿年窮御遐傲然所知其行心係教不愛容色壬申
幕下降。約余名選二氣所地武凌於城介民村一牛
鳴之地年庵曰煖來姑寫心靈。幕下微所於卷中
時時回法舉曉遇後隱對望意高成其秋所之京所
火之是官入。仙院海原人編矣洞激起如然以所
是情火悅所美我山身二世激若惟有祥所考之
困所考也。覆下。編旨。正皇允之畫章寶玉不
日而卜儀之氣火况小所考知年曩祖若冰也。幕下
於金城南石川劍草楚刺使所住坊山曰善和与日未

通成之日... 公與入山... 疏之... 且每... 路絕... 燈火... 光明

海然... 二月... 也... 壽七十... 有二... 俗... 不... 樹... 藁... 依... 運... 命... 也... 人... 宜... 泉... 南... 者... 祥... 雲... 樹... 名... 曰... 寂... 然... 異... 昔... 參... 玄... 芽... 子... 我... 野... 氏... 生... 齋... 每... 此... 年... 昇... 所... 身... 矣... 未... 結... 其... 悟... 因... 諸... 未... 果... 今... 茲... 實... 之... 不... 已... 海... 若... 道... 義... 於... 乃... 所... 者... 莫... 若... 余... 也... 於... 存... 亦... 然... 故... 不... 揣... 甚... 迴... 聊... 化... 夢... 乙... 遂... 為... 之... 銘... 曰... 虛... 實... 正... 派... 派... 入... 日... 東... 疏... 之... 鳴... 者... 火... 氣... 氣... 通... 真... 子... 婦... 孫... 火... 院... 火... 院... 且... 每... 院... 疎... 路... 絕... 人... 稀... 所... 從... 過... 中... 地... 執... 鏡... 生... 輝... 術... 棧... 跨... 竈... 燈... 火... 亮... 明

道精口海
 一系在中
 測才泉湧
 法石時矣
 橫物情波
 噴射山鏡
 噴日寂然
 不之去末
 不復也哉

既息幻象
 代為妙法
 悲憫痛味

既息幻象
 代為妙法
 悲憫痛味

德業長存

在泉尚祥雲祥乃寂然塔銘在序
 大年與國尚祥禪寺住持僧祿司
 黃曆三年癸酉冬十二月十一日
 慶無以五
 於
 於

取人時時快然快然我送禮今日
 疾由細子長莫不孔無妙應法
 遠順境於山始極難憶此法
 遠於佛以祖師錄方諸慈
 正保年二月廿五日

前任大德見東海以正未老
 七十三

歎石大人

為鄭先生之墓
 和六年己丑十月廿九日
 和六年己丑十月廿九日

歌之上卷九卷之三
 其歌之法... 深矣... 深矣... 深矣...
 ... (vertical text) ...

... (vertical text) ...

... (vertical text) ...

... (vertical text) ...

... (vertical text) ...

... (vertical text) ...

... (vertical text) ...

... (vertical text) ...

山海祥吉意落塔中
 况何用田...

尔之瀑布初如...

... (vertical text) ...

... (vertical text) ...

... (vertical text) ...

... (vertical text) ...

... (vertical text) ...

まうしぬくわくあつけさうし

悠野山幸り之味も日本まうしぬくわくあつけさうし

お徳も仁のてきく赤祥元年代長意気大所幸り三味と

吹りさうしゆゆさうしゆゆさうしゆゆさうしゆゆさうし

日火所し彩造りしと

風風山下妙國当幸りさうしゆゆさうしゆゆさうし

主所妙酒さうしゆゆさうしゆゆさうしゆゆさうし

本堂日蓮大士像紙相付殿下以五層塔建奉り

多宝塔建奉り殿下以五層塔建奉り

二王門建奉り殿下以五層塔建奉り

殿下以五層塔建奉り

殿下以五層塔建奉り

殿下以五層塔建奉り

殿下以五層塔建奉り

殿下以五層塔建奉り

殿下以五層塔建奉り

殿下以五層塔建奉り

殿下以五層塔建奉り

首九列北後出... 札人帝... 共一七八日

補陀山海星... 元奉... 佛人... 今... 如...

本堂市名後改祝世吉

淺標... 依...

北條... 此...

此... 矣... 乃...

二階... 要...

此... 乾元元年...

遠くまでと暮しを長く遊覧せしむるに
かゝり

油屋敷 東福寺の町中より南にありて
住持の姓は右大徳院

併に之とあるに此の地は
下東福寺の地也

菩薩の下の地なり
此の地は

多し
此の地は

和泉山内光寺 日本二河内より
以永九年に創設

之の地は
兼順律師の地なり

其後親香の人
以て此の地を

芳賢の地なり
此の地は

長子にて依杖の地なり
此の地は

此の地は
此の地は

此の地は
此の地は

此の地は
此の地は

此の地は
此の地は

此の地は
此の地は

大井山福寺 此の地は
此の地は

此の地は
此の地は

此の地は
此の地は

此の地は
此の地は

此の書は一巻の物語に基きて書かれたり
其の事は古くより傳へられて居り

鳥石の神は古くより傳へられて居り
其の事は古くより傳へられて居り
鳥石の神は古くより傳へられて居り
其の事は古くより傳へられて居り

類鳥石 石野公滝 鳥石類 鳥石類 吉田二夜 鳥石類

聯 鳥石類

就秋の珠笠鳥石

梅山公三位老談定論

遷降蒼海欽森風

抄日御七首歌傳

石華表 此の書は一巻の物語に基きて書かれたり
其の事は古くより傳へられて居り
鳥石の神は古くより傳へられて居り
其の事は古くより傳へられて居り

社記曰 此の書は一巻の物語に基きて書かれたり
其の事は古くより傳へられて居り
鳥石の神は古くより傳へられて居り
其の事は古くより傳へられて居り

其の事 此の書は一巻の物語に基きて書かれたり
其の事は古くより傳へられて居り
鳥石の神は古くより傳へられて居り
其の事は古くより傳へられて居り

鳥石の神 此の書は一巻の物語に基きて書かれたり
其の事は古くより傳へられて居り
鳥石の神は古くより傳へられて居り
其の事は古くより傳へられて居り

鳥石の神 此の書は一巻の物語に基きて書かれたり
其の事は古くより傳へられて居り
鳥石の神は古くより傳へられて居り
其の事は古くより傳へられて居り

鳥石の神 此の書は一巻の物語に基きて書かれたり
其の事は古くより傳へられて居り
鳥石の神は古くより傳へられて居り
其の事は古くより傳へられて居り

鳥石の神 此の書は一巻の物語に基きて書かれたり
其の事は古くより傳へられて居り
鳥石の神は古くより傳へられて居り
其の事は古くより傳へられて居り

鳥石の神 此の書は一巻の物語に基きて書かれたり
其の事は古くより傳へられて居り
鳥石の神は古くより傳へられて居り
其の事は古くより傳へられて居り

鳥石の神 此の書は一巻の物語に基きて書かれたり
其の事は古くより傳へられて居り
鳥石の神は古くより傳へられて居り
其の事は古くより傳へられて居り

鳥石の神 此の書は一巻の物語に基きて書かれたり
其の事は古くより傳へられて居り
鳥石の神は古くより傳へられて居り
其の事は古くより傳へられて居り

中向し在東船を世し以て此の地を針と名付し其後
法生れし其地を紅毛也故に此地を紅毛と名付し其後
清和天皇御宇皇親奉召八幡宮を依りて城を築き清水
寺を創りて中御所を造りて此の地を清水寺と名付し其後
弘治の亂に於て此地を治りて其地を清水寺と名付し其後

是地 弘治の亂に於て此地を治りて其地を清水寺と名付し其後
林の中を治りて其地を清水寺と名付し其後
一海を治りて其地を清水寺と名付し其後
淡路州 弘治の亂に於て此地を治りて其地を清水寺と名付し其後

此の地を治りて其地を清水寺と名付し其後

荒南崎 目一 弘治の亂に於て此地を治りて其地を清水寺と名付し其後

荒南崎 目一 弘治の亂に於て此地を治りて其地を清水寺と名付し其後

獲懸木 弘治の亂に於て此地を治りて其地を清水寺と名付し其後

枝を獲懸木と名付し其地を清水寺と名付し其後

此の地を治りて其地を清水寺と名付し其後

此の地を治りて其地を清水寺と名付し其後

此の地を治りて其地を清水寺と名付し其後

八幡山は山あり大所也山海を兼く方々村あり文脈元直
起立海をふりしり山を兼く人々然之情無常之如成境元直
権左氏付家

戸越八幡 戸越村は山也之文奉名は然生也之り山あり
戸越寺あり此中此村の所也其の徳いまも人徳也南社有り

水横より 水横は山あり山あり山あり山あり山あり山あり
水横より 水横は山あり山あり山あり山あり山あり山あり

水原山 田原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山
水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山

水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山
水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山

水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山
水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山

水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山

水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山

水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山

水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山

水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山 水原山

海防の林維山先生撰
不之知るは多し

福田山主事 蓮沼村主事

古刺... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

女塚 女塚村 蓮沼村

蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村... 蓮沼村...

一本ありてこれと稱すあり一頁あり

南島日蓮上人の遺書に古跡と云ふ事あり

此の事ありて事のついでに身取の事あり

いへば此の祖と云ふ文保元年丁巳云

修造して火利と云ふ事あり

筑後公正は後大正の間に在りて此の

取らば此の事ありて事のついでに

此の事ありて事のついでに

此の事ありて事のついでに

此の事ありて事のついでに

此の事ありて事のついでに

此の事ありて事のついでに

此の事ありて事のついでに

此の事ありて事のついでに

此の事ありて事のついでに

此の事ありて事のついでに

此の事ありて事のついでに

此の事ありて事のついでに

此の事ありて事のついでに

初野探出法下之善解 日本之善解 日本之善解 日本之善解

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教 日蓮上人之教

後人... 宗祖日... 宗祖火... 宗祖... 宗祖...

貞宗古力一振

初化爲一冊... 宗祖日...

宗祖日... 宗祖火... 宗祖...

貞宗古力一振... 宗祖日...

宗祖日... 宗祖火... 宗祖...

宗祖日... 宗祖火... 宗祖...

宗祖日... 宗祖火... 宗祖...

題目七多々
漢書 卷一百一十一
卷一百一十二
卷一百一十三
卷一百一十四
卷一百一十五
卷一百一十六
卷一百一十七
卷一百一十八
卷一百一十九
卷一百二十
卷一百二十一
卷一百二十二
卷一百二十三
卷一百二十四
卷一百二十五
卷一百二十六
卷一百二十七
卷一百二十八
卷一百二十九
卷一百三十
卷一百三十一
卷一百三十二
卷一百三十三
卷一百三十四
卷一百三十五
卷一百三十六
卷一百三十七
卷一百三十八
卷一百三十九
卷一百四十
卷一百四十一
卷一百四十二
卷一百四十三
卷一百四十四
卷一百四十五
卷一百四十六
卷一百四十七
卷一百四十八
卷一百四十九
卷一百五十
卷一百五十一
卷一百五十二
卷一百五十三
卷一百五十四
卷一百五十五
卷一百五十六
卷一百五十七
卷一百五十八
卷一百五十九
卷一百六十
卷一百六十一
卷一百六十二
卷一百六十三
卷一百六十四
卷一百六十五
卷一百六十六
卷一百六十七
卷一百六十八
卷一百六十九
卷一百七十
卷一百七十一
卷一百七十二
卷一百七十三
卷一百七十四
卷一百七十五
卷一百七十六
卷一百七十七
卷一百七十八
卷一百七十九
卷一百八十
卷一百八十一
卷一百八十二
卷一百八十三
卷一百八十四
卷一百八十五
卷一百八十六
卷一百八十七
卷一百八十八
卷一百八十九
卷一百九十
卷一百九十一
卷一百九十二
卷一百九十三
卷一百九十四
卷一百九十五
卷一百九十六
卷一百九十七
卷一百九十八
卷一百九十九
卷二百
卷二百一
卷二百二
卷二百三
卷二百四
卷二百五
卷二百六
卷二百七
卷二百八
卷二百九
卷二百十
卷二百十一
卷二百十二
卷二百十三
卷二百十四
卷二百十五
卷二百十六
卷二百十七
卷二百十八
卷二百十九
卷二百二十
卷二百二十一
卷二百二十二
卷二百二十三
卷二百二十四
卷二百二十五
卷二百二十六
卷二百二十七
卷二百二十八
卷二百二十九
卷二百三十
卷二百三十一
卷二百三十二
卷二百三十三
卷二百三十四
卷二百三十五
卷二百三十六
卷二百三十七
卷二百三十八
卷二百三十九
卷二百四十
卷二百四十一
卷二百四十二
卷二百四十三
卷二百四十四
卷二百四十五
卷二百四十六
卷二百四十七
卷二百四十八
卷二百四十九
卷二百五十
卷二百五十一
卷二百五十二
卷二百五十三
卷二百五十四
卷二百五十五
卷二百五十六
卷二百五十七
卷二百五十八
卷二百五十九
卷二百六十
卷二百六十一
卷二百六十二
卷二百六十三
卷二百六十四
卷二百六十五
卷二百六十六
卷二百六十七
卷二百六十八
卷二百六十九
卷二百七十
卷二百七十一
卷二百七十二
卷二百七十三
卷二百七十四
卷二百七十五
卷二百七十六
卷二百七十七
卷二百七十八
卷二百七十九
卷二百八十
卷二百八十一
卷二百八十二
卷二百八十三
卷二百八十四
卷二百八十五
卷二百八十六
卷二百八十七
卷二百八十八
卷二百八十九
卷二百九十
卷二百九十一
卷二百九十二
卷二百九十三
卷二百九十四
卷二百九十五
卷二百九十六
卷二百九十七
卷二百九十八
卷二百九十九
卷三百

甲辰年五月十一日
乙巳年六月十二日
丙午年七月十三日
丁未年八月十四日
戊申年九月十五日
己酉年十月十六日
庚戌年十一月十七日
辛亥年十二月十八日
壬子年正月十九日
癸丑年二月二十日
甲寅年三月二十一日
乙卯年四月二十二日
丙辰年五月二十三日
丁巳年六月二十四日
戊午年七月二十五日
己未年八月二十六日
庚申年九月二十七日
辛酉年十月二十八日
壬戌年十一月二十九日
癸亥年十二月三十日
甲子年正月三十一日
乙丑年二月一日
丙寅年三月二日
丁卯年三月三日
戊辰年三月四日
己巳年三月五日
庚午年三月六日
辛未年三月七日
壬申年三月八日
癸酉年三月九日
甲戌年三月十日
乙亥年三月十一日
丙子年三月十二日
丁丑年三月十三日
戊寅年三月十四日
己卯年三月十五日
庚辰年三月十六日
辛巳年三月十七日
壬午年三月十八日
癸未年三月十九日
甲申年三月二十日
乙酉年三月二十一日
丙戌年三月二十二日
丁亥年三月二十三日
戊子年三月二十四日
己丑年三月二十五日
庚寅年三月二十六日
辛卯年三月二十七日
壬辰年三月二十八日
癸巳年三月二十九日
甲午年三月三十日
乙未年三月三十一日
丙申年四月一日
丁酉年四月二日
戊戌年四月三日
己亥年四月四日
庚子年四月五日
辛丑年四月六日
壬寅年四月七日
癸卯年四月八日
甲辰年四月九日
乙巳年四月十日
丙午年四月十一日
丁未年四月十二日
戊申年四月十三日
己酉年四月十四日
庚戌年四月十五日
辛亥年四月十六日
壬子年四月十七日
癸丑年四月十八日
甲寅年四月十九日
乙卯年四月二十日
丙辰年四月二十一日
丁巳年四月二十二日
戊午年四月二十三日
己未年四月二十四日
庚申年四月二十五日
辛酉年四月二十六日
壬戌年四月二十七日
癸亥年四月二十八日
甲子年四月二十九日
乙丑年四月三十日
丙寅年五月一日
丁卯年五月二日
戊辰年五月三日
己巳年五月四日
庚午年五月五日
辛未年五月六日
壬申年五月七日
癸酉年五月八日
甲戌年五月九日
乙亥年五月十日
丙子年五月十一日
丁丑年五月十二日
戊寅年五月十三日
己卯年五月十四日
庚辰年五月十五日
辛巳年五月十六日
壬午年五月十七日
癸未年五月十八日
甲申年五月十九日
乙酉年五月二十日
丙戌年五月二十一日
丁亥年五月二十二日
戊子年五月二十三日
己丑年五月二十四日
庚寅年五月二十五日
辛卯年五月二十六日
壬辰年五月二十七日
癸巳年五月二十八日
甲午年五月二十九日
乙未年五月三十日
丙申年六月一日
丁酉年六月二日
戊戌年六月三日
己亥年六月四日
庚子年六月五日
辛丑年六月六日
壬寅年六月七日
癸卯年六月八日
甲辰年六月九日
乙巳年六月十日
丙午年六月十一日
丁未年六月十二日
戊申年六月十三日
己酉年六月十四日
庚戌年六月十五日
辛亥年六月十六日
壬子年六月十七日
癸丑年六月十八日
甲寅年六月十九日
乙卯年六月二十日
丙辰年六月二十一日
丁巳年六月二十二日
戊午年六月二十三日
己未年六月二十四日
庚申年六月二十五日
辛酉年六月二十六日
壬戌年六月二十七日
癸亥年六月二十八日
甲子年六月二十九日
乙丑年六月三十日
丙寅年七月一日
丁卯年七月二日
戊辰年七月三日
己巳年七月四日
庚午年七月五日
辛未年七月六日
壬申年七月七日
癸酉年七月八日
甲戌年七月九日
乙亥年七月十日
丙子年七月十一日
丁丑年七月十二日
戊寅年七月十三日
己卯年七月十四日
庚辰年七月十五日
辛巳年七月十六日
壬午年七月十七日
癸未年七月十八日
甲申年七月十九日
乙酉年七月二十日
丙戌年七月二十一日
丁亥年七月二十二日
戊子年七月二十三日
己丑年七月二十四日
庚寅年七月二十五日
辛卯年七月二十六日
壬辰年七月二十七日
癸巳年七月二十八日
甲午年七月二十九日
乙未年七月三十日
丙申年八月一日
丁酉年八月二日
戊戌年八月三日
己亥年八月四日
庚子年八月五日
辛丑年八月六日
壬寅年八月七日
癸卯年八月八日
甲辰年八月九日
乙巳年八月十日
丙午年八月十一日
丁未年八月十二日
戊申年八月十三日
己酉年八月十四日
庚戌年八月十五日
辛亥年八月十六日
壬子年八月十七日
癸丑年八月十八日
甲寅年八月十九日
乙卯年八月二十日
丙辰年八月二十一日
丁巳年八月二十二日
戊午年八月二十三日
己未年八月二十四日
庚申年八月二十五日
辛酉年八月二十六日
壬戌年八月二十七日
癸亥年八月二十八日
甲子年八月二十九日
乙丑年八月三十日
丙寅年八月三十一日
丁卯年九月一日
戊辰年九月二日
己巳年九月三日
庚午年九月四日
辛未年九月五日
壬申年九月六日
癸酉年九月七日
甲戌年九月八日
乙亥年九月九日
丙子年九月十日
丁丑年九月十一日
戊寅年九月十二日
己卯年九月十三日
庚辰年九月十四日
辛巳年九月十五日
壬午年九月十六日
癸未年九月十七日
甲申年九月十八日
乙酉年九月十九日
丙戌年九月二十日
丁亥年九月二十一日
戊子年九月二十二日
己丑年九月二十三日
庚寅年九月二十四日
辛卯年九月二十五日
壬辰年九月二十七日
癸巳年九月二十八日
甲午年九月二十九日
乙未年九月三十日
丙申年十月一日
丁酉年十月二日
戊戌年十月三日
己亥年十月四日
庚子年十月五日
辛丑年十月六日
壬寅年十月七日
癸卯年十月八日
甲辰年十月九日
乙巳年十月十日
丙午年十月十一日
丁未年十月十二日
戊申年十月十三日
己酉年十月十四日
庚戌年十月十五日
辛亥年十月十六日
壬子年十月十七日
癸丑年十月十八日
甲寅年十月十九日
乙卯年十月二十日
丙辰年十月二十一日
丁巳年十月二十二日
戊午年十月二十三日
己未年十月二十四日
庚申年十月二十五日
辛酉年十月二十六日
壬戌年十月二十七日
癸亥年十月二十八日
甲子年十月二十九日
乙丑年十月三十日
丙寅年十一月一日
丁卯年十一月二日
戊辰年十一月三日
己巳年十一月四日
庚午年十一月五日
辛未年十一月六日
壬申年十一月七日
癸酉年十一月八日
甲戌年十一月九日
乙亥年十一月十日
丙子年十一月十一日
丁丑年十一月十二日
戊寅年十一月十三日
己卯年十一月十四日
庚辰年十一月十五日
辛巳年十一月十六日
壬午年十一月十七日
癸未年十一月十八日
甲申年十一月十九日
乙酉年十一月二十日
丙戌年十一月二十一日
丁亥年十一月二十二日
戊子年十一月二十三日
己丑年十一月二十四日
庚寅年十一月二十五日
辛卯年十一月二十六日
壬辰年十一月二十七日
癸巳年十一月二十八日
甲午年十一月二十九日
乙未年十一月三十日
丙申年十二月一日
丁酉年十二月二日
戊戌年十二月三日
己亥年十二月四日
庚子年十二月五日
辛丑年十二月六日
壬寅年十二月七日
癸卯年十二月八日
甲辰年十二月九日
乙巳年十二月十日
丙午年十二月十一日
丁未年十二月十二日
戊申年十二月十三日
己酉年十二月十四日
庚戌年十二月十五日
辛亥年十二月十六日
壬子年十二月十七日
癸丑年十二月十八日
甲寅年十二月十九日
乙卯年十二月二十日
丙辰年十二月二十一日
丁巳年十二月二十二日
戊午年十二月二十三日
己未年十二月二十四日
庚申年十二月二十五日
辛酉年十二月二十六日
壬戌年十二月二十七日
癸亥年十二月二十八日
甲子年十二月二十九日
乙丑年十二月三十日

